

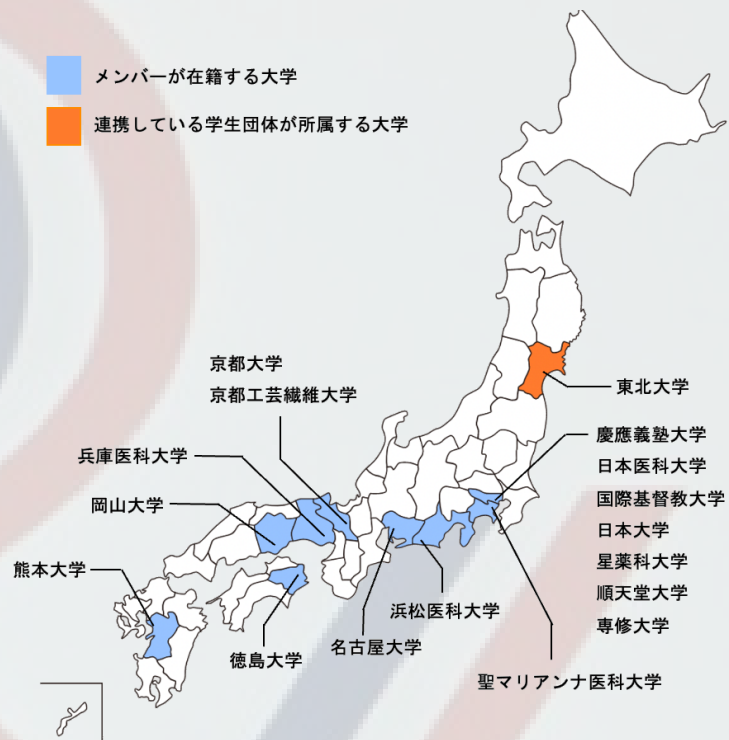
K-MIC REPORT #1

APR 2022

K-MICとは？

k-medical innovation club (k-mic) は、ヘルスケア領域の様々な課題に対してビジネスの観点から克服を目指すmedical entrepreneurの育成を行う学生団体です。2021年、慶應義塾大学医学部2年生（当時）らによって設立されて以来、同大学の現役医学生に加え、同大学理工学部やSFC（総合政策学部・環境情報学部・看護医療学部）、更には他大学の学生もメンバーとして加わり、約40-50名ほどで活動しています。

これまで、外部講師をお招きした教育プログラムや起業家・専門家による特別講義を通じて、ニーズ探索から解決策創出のバイオデザインの方法論を学び、その実践として少人数グループに分かれてビジネスプランの創出を行ってきました。そのほか、様々なバックグラウンドや経験をもったメンバーによる内部勉強会を定期的に行っています。



幹部メンバー紹介



代表 中原 楊
慶應義塾大学医学部4年

“今後20年の医療レベルを維持できるかどうかは我々の世代にかかっています。”



副代表 田村 友宏
慶應義塾大学医学部4年

“現代医療の限界を打破するアイデアを試行し、明るい未来を届けられるように。”



広報 窪田 翔
慶應義塾大学医学部4年

“学生だからこそ広げることのできる選択肢と視野があります。色々なことに挑戦してみましょう！”



k-mic
(k-medical innovation club)

編集:伊庭知里・窪田翔・田村友宏 制作:戸澤小春

HP: k-mic.org
Twitter: @kmedinnovclub

K-MIC2021の活動実績

※講演時点の職位を記載しているため、現在とは異なる可能性があります。

第1、2回教育プログラム

前田裕二郎先生 (東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長)

柿花隆昭先生 (東京大学医学部附属病院 特任研究員)

杉本宗優先生 (東京大学医学部附属病院 心臓外科 特任助教)

第6回健康医療ベンチャー大賞

決勝進出、学生部門オーディエンス賞受賞

1月 キックオフイベント

2-5月 教育プログラム

6-12月 ビジコン

坪田一男先生 (慶應義塾大学医学部 眼科学教室 教授、
株式会社坪田ラボ CEO)
田澤雄基先生 (慶應義塾大学医学部
精神・神経科 特任助教)

第3回教育プログラム

五十嵐健祐先生 (デジタルハリウッド大学院 専任准教授)

清水映輔先生 (慶應義塾大学医学部 眼科学教室 特任講師、OUI Inc. CEO)

第6回健康医療ベンチャー大賞 学生部門オーディエンス賞受賞！



k-micは設立時、慶應義塾大学医学部主催の健康医療ベンチャー大賞で決勝へと進出するチームを作り出すという目標を掲げました。教育プログラムなどを通じて得られる様々な先生方からのインプットを、目に見える形でアウトプットしたいと考えたからです。そんな中、生まれたチームが「SUN」でした。k-micのメンバーの中で同じ課題意識を持って取り組みたいと考えたメンバー5人が集まって、結成されたチームです。

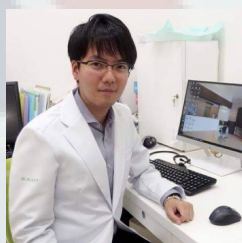
SUNが取り組んだ課題は医療従事者のメンタルケア。SUNという名前には「命を守る方々の心を照らす太陽を創り出す」、そんな思いが込められています。まだポリクリ（臨床実習）ですら病院に出たことがない5人が医療従事者のメンタルヘルスを守るなどというのは見方によっては馬鹿げているかもしれませんが。しかし逆に言えば、バイアスの少ない学生だからこそ、未来への希望も込めてこの課題と真剣に向き合えたのだと思います。

医療従事者のバーンアウト（燃え尽き症候群）をスクリーニングで未然に防ぐというアイデアをベースにしたプランで臨んだベンチャー大賞でしたが、なんと100を超えるチームの中から決勝に進出することができました。優勝こそできなかったものの、オーディエンスの皆様の投票で決まるオーディエンス賞を受賞することができました。ここまでSUNが頑張れたのは、教育プログラムでお世話になった柿花先生や慶應の精神・神経科の岸本泰士郎先生をはじめとする先生方、k-micに所属する仲間のサポートがあったからです。本当にありがとうございました。現在SUNはさらなる発展に向けて、メンバー一同、力を蓄えています。

アドバイザー、講師陣



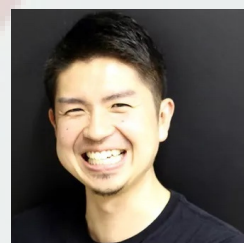
坪田一男先生



田澤雄基先生



前田裕二郎先生



柿花隆昭先生



五十嵐健祐先生



杉本宗優先生



清水映輔先生



堅田侑作先生

編集 後記

長引く新型コロナウイルス感染症の感染拡大や予測を許さないウクライナ情勢など、世界は危機的なフェーズに直面しているように思います。この世界にイノベーションをもたらすことのできるものは何なのでしょう。イノベーションに興味のある学生が集いヘルスケア領域を中心に社会に目を向けて課題やニーズを探し、新しい何かを生み出すために議論を交わす。この営み自体に大きな意義があるように思います。様々なバックグラウンドや経験をもつメンバーが集まり互いに切磋琢磨できるk-micのようなプラットフォームは、変化の激しいこの時代を生き抜くために非常に有効であるように感じます。今後もk-micの活動を内外に広く発信し、一人でも多くの人により興味を持ていただけるよう、この記事をお届けしていきたいと思っています。

編集:伊庭知里・窪田翔・田村友宏 制作:戸澤小春

k-mic

(k-medical innovation club)

HP: k-mic.org

Twitter: @kmedinnovclub